

令和 7 年度

自己評価報告書

令和 8 年 7 月

一般財団法人 岩手済生医会
岩手リハビリテーション学院

I 自己評価について

岩手リハビリテーション学院では『専修学校における学校評価ガイドライン』（文部科学省：平成 25 年 3 月）に基づき、学校評価実施規程を定め自己評価を行なっている。

II 自己評価委員会

委員長	遠藤 重厚	学院長
委員	細川 康紀	副学院長
委員	佐藤 浩哉	理学療法学科長
委員	岡崎 謙治	作業療法学科長
委員	船越 杏菜	事務長

III 対象期間

令和 7 年 4 月 1 日 ～ 令和 8 年 3 月 3 1 日

IV 各評価項目における取組状況

1. 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2) 学校における職業教育の特色を持っているか	4
3) 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・ 保護者等に周知されているか	4
4) 各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界の ニーズに向けて方向づけられているか	4

【現状および課題】

- ・教育理念・教育目標・育成人材像については、ホームページおよび学生便覧に継続的に掲載している。また、学院見学説明会や入学時オリエンテーションにおいても周知を図っている。
- ・教育方針をより具体的に示すため、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を策定し、ホームページ等で公開している。
- ・社会人として求められる素養の育成を目的に、外部講師による各種セミナーを実施した。

- ・年2回、両学科合同で就職説明会を開催し、業界ニーズの把握に努めた。
- ・臨床実習指導者会議や実習地訪問を通じて、業界ニーズの把握に努めた。

【対策】

- ・臨床実習指導者会議・実習地訪問・就職説明会等をできる限り対面で行い業界ニーズの把握に努めていく。
- ・今後も業界動向を注視し情報を入手するとともに、ニーズを踏まえ方向づけを実施していく。

2. 学校運営

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2) 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3) 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	4
4) 人事・給与に関する規程等は整備されているか	4
5) 教務・財務等の組織整備など、意思決定システムは整備されているか	4
6) 教育活動等に関する情報公開が適切に行われているか	4
7) 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

【現状および課題】

- ・学校運営は学科会議・各業務会議等で協議の上、学院の意思決定機関である職員会議にて意思決定を行っている。また、重要な案件に関しては、法人理事会に諮り承認を受けている。
- ・前年度課題であったホームページの内容変更遅延は学院体制の見直し・業者との情報共有改善によって改善が図られてきている。
- ・学生への学事情報伝達は両学科統一せず、理学療法学科がホームページの電子掲示板、作業療法学科が従来の書面掲示板で周知することとした。両学科とも混乱することなく学生・教員間の情報共有が行われている。
- ・学籍管理システムの運用業務において教員と事務のすみ分けが曖昧な部分がある。

【対策】

- ・学籍管理システム運用における効率化はプログラム上の運用業務権限を整理しながら効率化を図る。

3. 教育活動

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2) 教育理念、人材育成や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3) 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4) キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5) 関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6) 関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7) 授業評価の実施・評価体制はあるか	3
8) 成績評価、単位認定、進級・卒業判定の基準が明らかになっているか	4
9) 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的位置づけはあるか	4
10) 人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	3
11) 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
12) 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4
13) 教員の能力開発のための研修会等が行われているか	3

【現状および課題】

- ・学科毎に人材育成要件（指定規則、教育ガイドライン、養成教育モデル・コア・カリキュラム等）を踏まえたカリキュラムの検討を継続的に行っている。
- ・臨床教育に関しては令和7年度臨床実習指導者会議を両学科とも実習形態により適宜Web・対面を選定しながら開催し、臨床実習指針等の共有を図った。また、臨床実習の進捗状況確認や情報交換は現地を訪問し対面で行った。
- ・授業評価に関しては、理学療法学科・作業療法学科共に授業評価を実施し、個々の教員の振り返りに活用したが学科業務への反映は不十分であった。
- ・成績評価において GPA（Grade Point Average）の導入を行った。学生指導への活用は不十分な部分があった。
- ・常勤教員には実務経験を有する者を配置している。専任教員数は作業療法学科8名、理学

療法学科は常勤教員 6 名勤務しているが専任教員は 4 名、教員講習会受講者が 1 名であった。令和 8 年度は専任教員資格取得者確保を進める。

- ・FD 会議等を行いながら学内での研鑽は図っているが、教員研修会や専門性向上に向けた研修会参加は、研修会定員数の関係や時間的制約等もあり、十分に行えたとは言えない。

【対策】

- ・学科毎に学生による授業評価をどのように業務改善に反映させるか検討していく。
- ・理学療法学科専任教員確保に向け、募集活動を積極的に進めていく。
- ・GPA（Grade Point Average）をより学生指導に活用するため、学生管理システムの改修と活用方法の検討を進めていく。

4. 学修成果

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 就職率の向上が図られているか	4
2) 資格取得率の向上が図られているか	4
3) 留年率の低減が図られているか	4
4) 退学率の低減が図られているか	4
5) 卒業生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3
6) 卒業後のキャリア形成への教育活動がなされているか	3

※ 第 61 回国家試験について

理学療法学科	新卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	35 名	34 名	97.1%（94.9%）
	既卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	3 名	0 名	0%（35%）
	総受検者数	合格者数	合格率（全国）
	38 名	34 名	89.5%（89.7%）
作業療法学科	新卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	25 名	24 名	96%（94.9%）
	既卒受験者数	合格者数	合格率（全国）
	4 名	1 名	25%（49.8%）
	総受検者数	合格者数	合格率（全国）
	29 名	25 名	86.2%（91.2%）

《理学療法学科》

【現状および課題】

- ・新卒者の第61回理学療法士国家試験合格率は97.1%となり全国平均を上回ることができた。国家試験対策に関する学習指導を行ったほか、外部業者の学習システムの導入等も功を奏したものと考える。

【対策】

- ・今年度も昨年度同様、外部業者のシステムの活用と国家試験対策に関する学習指導を進めていく。

《作業療法学科》

1 在校生

【現状（対応）】

- ・学修面においては資格取得に向けて出来るだけ具体化するために1年次から最終学年に至るまでシラバス、カリキュラムマップ、ツリーなどの提示を行った。心理的な面のサポートに関しては1年次から4年次まで資格取得に向けての情報提示、試験対策、定期ホームルーム、個別面談の実施に心がけた。

【課題】

- ・国家試験受験までの指導マニュアルは出来上がってきている。
- ・学生個々の状況把握が不明確。
 - ①学修上の課題（点数、進行の進捗状況、自己課題への気づき等）
 - ②生活上の課題（食事、睡眠、休養等）

【対策】

- ・課題の明確化への取り組み
 - ①指導マニュアルに沿った進捗状況の確認
 - ②個別面談の実施
- ・学生個々の指導は、生活リズム（食事、休養の摂り方等含む）・学修リズム・模擬試験結果・自身の自己フィードバック等を分析し、課題把握のため可能な限り早急に学生とのフィードバック実施に心がける。

2 既卒生

【現状・課題】

- ・4名中1名が合格であった。月1回登校にて学習計画や学習内容を確認していくことで、4月から開始したが、9月までの間に3名がフェードアウトしていった。
- ・結果としては4名中1名が合格となった。合格した1名は学習計画・学習方法の見直し・学習時間の確保についてアドバイスを参考にしながら継続的に取り組んでいた。
- ・それに対し不合格となった既卒生は、不合格経験を活かした学習方法（暗記中心の学習）の見直し・モチベーションの維持・学習時間の確保がうまくいかなかった。

【対策】

- ・画一的な指導は当てはまらず、個々の既卒生に寄り添った対応を心がけていくことで学習姿勢の変化を促していく。

※留年者・退学者状況

－留年者－

理学療法学科	144 名中 0 名	0%
作業療法学科	91 名中 1 名	1.09 % (2 年生 1 名)

－退学者－

理学療法学科	144 名中 3 名	2.08% (1 年生 2 名、2 年生 1 名)
作業療法学科	91 名中 3 名	3.29% (1 年生 1 名、2 年生 1 名、3 年生 1 名)

《理学療法学科》

【現状および課題】

- ・留年者は令和 7 年度も、令和 6 年度に引き続き、ゼロであった。今後も引き続き、学生に対しての声かけを行いながら、成績不振者に対しての指導を強化していく予定である。
- ・令和 7 年度の退学者は令和 6 年度同様 3 名いるが、令和 5 年度の 7 名、令和 4 年度の 6 名と比較すると、低減対策の強化は確実に実を結んでいるものとする。

【対策】

- ・ここ数年 1 学年の退学者がほとんどであり、来年度は 1 学年学務担当教員を中心に定期的な面談を開始し、学生の悩み等について早期に把握し対処できる環境を整えていく。

《作業療法学科》

【現状】

- ・令和 7 年度の留年者は 2 年生 1 名であり、昨年度と比較して 2 名の減少となった。学生一人ひとりの状況把握（学習意欲の低下等を含む）や対応に遅れが生じないように担任制を敷き、さらに月 2～3 回の学科会議を開催して全教員で情報共有を行った。可能な範囲で学生個々の状況確認に努め、指導体制を明確化することで留年率の低減に取り組んだ。
- ・退学者数は昨年度と同様に 3 名であった。退学理由については、これまで成績不良が多く見られたが、今年度は自身の進路変更によるものが多く、この点が従来との違いである。
- ・専門職としての意識を育成できるよう、担任以外の教員も各担当科目を通じて学生が将来像を具体的に描けるよう支援した。学生の個性に寄り添えるよう、教員それぞれがロールモデルとなることを意識して指導を行った。また、学業面のみならず、一般社会人としての視点を養えるよう支援を行った。これらの取り組みについては、学年ごとのホームルームを活用し、退学率の低減につながるよう努めた。

【対応】

- ・入学生の職業意識の醸成やリハビリテーション専門職としての将来像の明確化を通じて、留年率・退学率の改善に向け、今後も一層取り組んでいきたい。また、在校生の状況把握については、学科全体で情報共有・情報交換を進め、組織的な支援体制を強化していく。学生一人ひとりが抱えている入学動機を卒業まで後押しできるよう、継続的に支援を行っていく。

5. 学生支援

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2) 学生相談に関する体制は整備されているか	4
3) 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4) 学生の健康管理を担う体制は整備されているか	4
5) 課外活動に対する体制は整備されているか	4
6) 学生の生活環境への支援は行われているか	4
7) 保護者と適切に連携しているか	3
8) 卒業生への支援体制は整備されているか	3
9) 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10) 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3

※学生相談

《理学療法学科》

【現状】

- ・学年担当者等を明確にすることで、個別指導を強化している。
- ・担任制は取っていないものの、各学年の学務担当を中心に教員全員で学生相談に応じる体制を有している。

【対策】

- ・学生との定期的な個人面談や希望する保護者との面談を実施していく。さらに、学生自治会の活動も活発化するよう指導していく。

《作業療法学科》

【現状】

- ・全学生対象に随時、申し出があれば対応できるように学生には周知している。学生保護者に対しても説明会(1回/年)、学科通信(2回/年)の中でも相談に関しては周知するよう努めている。またこれとは別に学院内に目安箱を設置し体制を整備した。

【対策】

- ・学生に対して
定期的、非定期的な面談の実施および周知に努める。この中で学修面、生活面等学校生活の状況把握を重視する。
- ・保護者に対して
保護者説明会内容の向上のため、アンケート調査の実施と分析。そして何らかの課題があれば、その内容把握に努められるよう学科体制を整えていく(面談、オンラインでの相談等)。

※ハラスメント等

【現状および課題】

- ・「よろず相談窓口」の周知を始業式等で周知している。
- ・定期的な授業評価アンケートおよび学校生活アンケート調査（匿名性確保しながら）を行った。
- ・外部講師を招いてハラスメント講習会を実施し、教職員がハラスメントに対する理解と認識を深める機会を設けた。相談窓口の利用はなく、アンケート調査においてもハラスメントに関する訴えは確認されなかった。

【対策】

- ・始業式等で「よろず相談窓口」の活用について定期的に周知していく。
- ・定期的に授業評価アンケートおよび学校生活アンケート調査（匿名）を行う。
- ・外部講師による『ハラスメント講習会』の実施

※保護者等との連携

《理学療法学科》

【現状および課題】

- ・令和7年度に計画していた「学科通信」の発行は、諸事情により実施には至らなかったが、1・3・4年次の保護者を対象とした説明会を開催し、臨床教育を含む教育内容について周知と理解の促進に努めた。
- ・面談希望者への対応

【対策】

- ・1・3・4年次において保護者説明会を開催し、学科の教育内容および指導方針について理解と協力の促進に努めていく。
- ・年2回の成績表の送付
- ・随時面談（必要に応じ個別に案内）

《作業療法学科》

【現状】

- ・学年毎の保護者説明会の実施
 - 1、4年次は対面開催
 - 2、3年次はオンライン開催
- アンケート実施にて、設定時間・時期、内容等に関しては把握
- ・学科通信の作成、送付
- ・成績表の送付
- ・随時面談（必要に応じ個別に案内）

※面談に関しては基本的に教員2名以上で対応

【対策】

- ・学年毎、説明会実施の継続と内容の検討
- ・学科通信内容の検討
- ・成績表の通知内容について検討と精査

6. 教育環境

評価項目	適切・・・４ ほぼ適切・・・３ やや不適切・・・２ 不適切・・・１
１）施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	３
２）学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修について十分な教育体制が整備されているか	４
３）防災に対する体制は整備されているか	３

【現状および課題】

- ・施設設備には問題はないが、老朽化した設備は随時更新を行っている。今後、補装具・車椅子などの定期的なメンテナンス・入替を検討している。
- ・学院内防災体制の組織化、防災訓練の実施など適宜実施している。緊急時の対応等検証・検討を必要とするものも見られる。

【対策】

- ・購入日、購入時期を物品・備品リストを整理し、定期的な物品の刷新を計画していく。
- ・防災に関しては災害発生時に対応した自動販売機の設置等をしている。また、備蓄においてはチェックリストを作成し数・保管場所・消費期限の管理をしていく。

7. 学生受け入れ

評価項目	適切・・・４ ほぼ適切・・・３ やや不適切・・・２ 不適切・・・１
１）学生募集活動は適正に行われているか	４
２）学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか	４
３）学納金は妥当なものになっているか	４

【現状および課題】

- ・請求者に対する学生募集要項の配布，高等学校からの見学受入れ，説明会への参加やオープンキャンパスの実施を通じ，広く応募の機会を設けている。
- ・学生募集活動においては国家試験合格率、指導体制、カリキュラムの特性等についても公開している（学院ホームページ等）。また学院見学説明会（対面開催）においても情報の公開を積極的に行っている。高校訪問による直接募集活動も行った。この中では進級、国家試験合格率等についても適正な運営を各高校へ伝えることができた。
- ・規程に則った学納金納入を原則とし，必要経費等に関しては都度説明を実施している。

【対策】

- ・学生の受け入れに関しては社会構造の多様性と共生ということを念頭に入れて学生募集と支援について検討をしていく。この在り方として学院パンフレット、募集要項の作成、学院ホームページ、各種 SNS 等も活用して努めていく。
- ・SNS の活用に関しては個人情報管理にも十分に留意して対応していく。
- ・今後も高校訪問を通して本学の進級、卒業、国家試験受験まで適正な運営と成果を伝えるように努めていく。

8. 財務

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 中長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか	3
2) 予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	3
3) 財務について会計監査が適正に行われているか	4
4) 財務情報公開の体制整備は出来ているか	4

【現状および課題】

- ・入学志願者減少への対策が必要である。
- ・法人としては病院経営も行っており、コロナの影響から脱却していない。
- ・校舎・教育器材等の老朽化が進んでおり、計画的な入替を検討していく必要がある。
- ・法人の財務情報をホームページ上に公開している。

【対策】

- ・入学志願者獲得のため、デジタルマーケティング、ブランディングや高校訪問の強化を行い、高校生および保護者が本校を認知してから出願・受験に至るまでの接触機会を増やし、受験へ確実につなげるための導線を構築する。
- ・法人は2病院統合後の病院部門の経営安定を図る。
- ・校舎の老朽化対策として、非常階段、校舎北面、西面の外壁改修を複数年で行う。

9. 法令遵守

評価項目	適切・・・4 ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2 不適切・・・1
1) 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2) 個人情報保護に関し、その保護のための対策が取られているか	4
3) 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4) 自己評価結果を公開しているか	4

【現状および課題、対策】

- ・理学療法士・作業療法士養成施設等学校指定規則に則り運営している。
- ・個人情報保護に関する規程ならびにプライバシーポリシーを設定の上、運営し、個人情報収集にあたっては説明・保管の方法を示すなど適切な運営を心がけている。
- ・自己評価及び学校関係者評価を行い、自己点検を進め、その内容についてホームページ上に公開している。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4
	ほぼ適切・・・3
	やや不適切・・・2
	不適切・・・1
1) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2) 学生ボランティア活動を奨励支援しているか	4
3) 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

【現状および課題】

- ・地域住民との懇談、学校施設の公開を積極的に行った。この企画には本地域担当包括支援センターとの協業も行った。近隣の小学校の障害児支援についても要望に応える形で可能な限りの支援に取り組んだ。
- ・学生ボランティア活動に関しては学院が窓口となり、学生自治会へ伝える形をとっている。この中では教職員より趣旨説明等を適宜行い、学生の参加について情報共有しながら支援を行った。この際、学生の勉学、生活に支障のないように配慮しながら執り行った。
- ・関係機関の各種委員派遣、各種セミナー等、業界団体を通じた講師依頼などに積極的に対応した。

【対策】

- ・学院の教育資源などに関しては医療関連団体への人的・物的協力には積極的に関係強化を含めて支援していく。また地域生活という視点では行政機関、社会福祉協議会、地域包括支援センター、学院近隣小中学校、地域住民への人的・物的協力支援も今後も取り組んでいく。